

## 定例研究会のお知らせ

阿部 悟郎（東海大学）

平成 30 年度第 3 回定例研究会を 3 月 2 日（土）に下記の要領で開催いたします。なお、研究会終了後 18 時 30 分より懇親会を予定しております。会員の皆さま、ぜひともご参加ください。

- ・日 時：平成 31 年 3 月 2 日（土）15:00～18:00
- ・会 場：日本体育大学 世田谷キャンパス 2205 教室

〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1

○アクセス：東急田園都市線 桜新町駅下車 徒歩 15 分程度 バス 5 分程度  
東急大井町線 等々力駅下車 徒歩 25 分程度 バス 10 分程度

○アクセスマップ：<http://www.nittai.ac.jp/access/tokyo.html>



## 発表内容（予定）

### 【発表①】石川智貴（東海大学大学院）

#### 体育学における指導概念の教育学的基礎に関する検討 ——キルパトリックの教育学を中心として——

体育・スポーツにおいては、随所に指導という行為が見られる。それは、表層的に見れば技術の伝達であったり、体力・運動能力の向上に向けた外在的介入であったり、様々である。さて、体育・スポーツにおける「指導」という行為はいったいどのような意味を持っているのだろうか。そこで本研究では、デューイの教育学を教授学的に展開したキルパトリックの教育学に基づいて、指導概念の教育学的な基礎づけを試みたい。

### 【発表②】二宮清純（スポーツジャーナリスト）

#### 広島東洋カープの神話分析——「市民球団」は何を生成したか——

本研究では、広島東洋カープを市民球団とみなす神話の形成過程とその意味作用について考察した。1955年に設立され、「郷土球団」「県民球団」と呼ばれた広島野球倶楽部は、日本の歴史には存在しない「市民が運

営や経営に関わる球団」を実現させる可能性を内包していた。しかし多くの郷土人を純粋に感動させた「赤ヘル軍団」の物語が流通する時期には「市民球団」という言葉が使われ、「カープ女子」の物語においては「広島野球倶楽部」、「広島カープ」、「広島東洋カープ」の違いが不可視化する。その一方で、この市民球団の神話は、現代の若い女性たちの間に「ヒロシマ」の物語を受け継ぐことにもなったのである。

### 【発表③】 佐藤雄哉（国士舘大学大学院）

#### 武道の教育論 序説

本研究の目的は、武道の教育的価値を現在の視点から考察することである。そしてそれは、文化変容に直面する身体技法としての武道によって獲得される身体的教養を、現在の視点から捉え、国際的なスポーツであるという現実を受け止めながらも、伝統文化としての在り方を保持し続けようとする武道の奥深さ、すなわち文化変容に直面する身体技法としての武道の本来性について再評価する試みでもある。

### 【発表④】 松田太希（中国地域）

#### 博士論文とその後

博士論文『学校教育の暴力性に関する社会哲学的研究—スポーツ集団への着目から—』（広島大学、2017年）の概要について発表する。この博士論文のポイントは、①暴力現象と暴力性を区別すること、②学校の暴力性を考えるために、方法的に、スポーツ集団の暴力性に関する社会哲学的な考察を迂回した点にあった。なお、博士論文の提出から二年が経過しているため、その後の発展として、最近の研究の状況についても発表する。

### 【発表⑤】 松田太希（中国地域）、加藤敦志（日本バレーボール協会）

#### バレーボールにおける体罰・暴力問題の解決を目指して

バレーボールの指導現場では、体罰・暴力がいまだに深刻な問題として存在している。日本バレーボール協会は、問題の解決に向けた対策を進めている。具体的な動きは既にあるのだが、その有効性は、現状と照らし合わせ、今後も継続的に改善されていかなければならない。本発表では、暴力を根絶できないバレーボール界の状況、その根底にある現実認識、そして、思い描く将来について述べる。様々なご意見をいただき、有効な対策の考案につなげていきたい。

~~~~~

定例研究会での発表希望は、随時、受け付けております。

また、次回、来年度第1回の定例研究会は5月下旬または6月上旬、場所は東京界隈で検討中です。つきましては、第1回定例研究会の発表者を募集いたします。発表を希望される会員の方は、専門領域事務局（高岡英氣）と研究会担当運営委員（阿部悟郎：gr-abe@tsc.u-tokai.ac.jp）に電子メールにてご連絡願います。